

- 1 日時 令和4年12月13日(水) 午後6時30分～午後8時30分
- 2 場所 調布市文化会館たづくり1001学習室
- 3 出席者
 - (1) 委員 10人
 - (2) 事務局 文化生涯学習課 5人
 - (3) 傍聴者 1人

次第1 委員紹介

- ・各委員より自己紹介

次第2 会長及び副会長の選出

- ・事務局より以下の資料について説明
調布市生涯学習推進協議会条例(資料3)
- ・会長及び副会長の選任

次第3 (1) 調布市基本計画に位置付けた生涯学習のまちづくりについて

- ・事務局より以下の資料について説明
調布市における今後の生涯学習の振興及び第13期調布市生涯学習推進協議会の設置について(資料4)
- 調布市基本計画に位置付けた生涯学習のまちづくりについて(資料5)

会長 事務局からの説明ありがとうございました。資料4、資料5の内容についてご質問やご確認事項がございましたらお願いいたします。特に資料4の3のところ、今後の生涯学習の振興に向けた考え方(案)について広くご意見を頂きたいと思っております。皆様それぞれ専門のお立場で関わっていらっしゃると思いますが、3つの考え方がこれからの答申の柱になっていくかと思っておりますので、こちらについてご意見を頂ければと思っておりますがいかがでしょうか。人生100年時代を見据えた生涯学習の推進、この考え方につきましているかがでしょう。

委員7 ここに書いてある40代～50代を含むシニア層からの継続した社会活動への参加支援を主に話せばよいでしょうか。

会長 では、私からの意見を話させていただきますと、例えば1番の国の内容で書いているようなことを踏まえますと、人生100年時代と考えたら、もっと前の幼少期の頃からの学びということが重要だと言われておりますので、40、50代でというよりも、幅広い年代を対象として生涯を通じた活動への参加、支援といった方がより良いのではないかと思いついて見えていたのですけれども、いかがですか。

委員8 仰っている通りでして、途中から社会活動への参加というのは結構ハードルが高いと思っております。CAPSでは若いうちから地域と繋がろうというところをやっているこの3年間は地域での活動がコロ

ナで出来なかったのですが、コロナになる前に出来ていた活動は結構今でも地域での参加につながっていますので、若い頃から継続していくことがすごく大事ななと感じています。私自身も実家は多摩地域なのですが、親が社会活動をしていて小さい頃から見ていることと、体験をしていたので全然違和感はないんですけども、途中、高校生位からでも入ってきて「どこか行こうよ」と言ってもなかなか出ていくにはハードルが高いと思いますので、若いうちから経験、継続していくのが良いと思いました。

委員3 ターゲットを絞るのか、あるいは広げるのかという議論ですけれども、広げすぎるとぼやけてしまう可能性もあるし、教育委員会の所管のところもあるでしょうから、そのところは少し線引きをした方が良いと思います。生涯学習といえども義務教育期間は学校教育が主ですね。そこから先はどうするのかというのがあると思いますけれども、その辺のところは線引きをしないと、この協議会として提言をするときに論点がぼやけてしまうということになりかねないのではないかと思います。

事務局A 事務局から1点ご報告させて頂きたいと思います。まず議論に当たりまして、生涯学習の定義と申しますが、国でどのように捉えられているのかというところを共有させていただければと思います。文部科学白書、この中で生涯学習につきましては一般に人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味などさまざま場で行う機会において行う学習の意味であるとされています。すなわち先ほど議論の中にもありました学校教育というところも含めて、広く広域での教育で言うところの内容で生涯学習ということを取られている。こうした定義の中で国の諮問を受けた形で中央教育審議会の生涯学習分科会において人生100年時代を見据えた生涯学習の推進と示されているということでございます。この内容につきましては前提条件として共有したうえでご議論を進めて頂ければと思います。

会長 非常に広いですね。ただ1つの言葉で表すには難しいですけれども。

委員4 今、色々お話を聞かしまして、幼少期から高齢者まで切れ目ない支援というのが必要なのではないかと思います。ただその年代年代によってきっかけ作りの方法とかそういうものは違ってくると思います。若い世代であれば日時が指定された講座を受講するのは難しいけれども配信動画だったら気軽に参加できるかもしれないということで、きっかけ作り、様々な手法がその年代年代で考えられるのではないかなと思います。この考え方のところでは全ての年代で考えても良いのかなと思います。

委員7 私も退職前、30代、40代、50代というふう具体的に書かれてしまうとどうしてもこれにひっぱられるということが心配です。一番働いている世代、今はお父さんもお母さんも働いているのは当たり前になってきていて40代、50代仕事をしている人は1番責任も重くなってきて仕事の持っている量も多いので、ここが入口になるのは結構難しいと思う。その前に趣味だとか文化的な活動を音楽やっていた、歌やっていた、地域の清掃活動やっていました。幅広い意味での生涯にかかわる入口をどこで作るのか、というところはやはりみなさんがおっしゃっていた多世代、多様な世代が多様な入口を用意された中から自分にあった入口を見つけ出すのがすごく大事なのではないかと思います。もちろん我々地域デビューの方々ともお付き合いがあるので会社を卒業した第2の人生の中で新しい自分を見つけ出したい新しい活動をしてみたいというのも生涯学習の視点でいくとそこが入口っていうのも第2の人生をより豊かにするという視点ではすごく大事なところなんだけれども、それより前に趣味を見つけていることだとか、私がかかわっている中で思うのが中学生、高校生が1番調布市というくくりから離れていく世代、地域、住んでいる町から離れていく世代じゃないかと私は思っています。学校の部活があつて、部活も生涯学習なのかもしれない。ス

スポーツを極めることでということでもかもしれない。ワールドカップに出場した調布出身の選手もいます。小学生だと親にいつてらっしゃいと言われ、中高生になると自分の意志で行く、大人になって自分の1週間、1日の時間、1か月の時間、どの時間を生涯学習にあてるのかと考えられるというのがたぶん大事で入口はどっからでもいいのかな。ただ入りやすいのは若い時に子どもの頃から何らかの経験や体験をしていくことが入口としてその経験が受験で忙しいからできない。でも就職して自分の時間をきちっと作れるようになった時に学生時代にやっていた活動を再度スタートさせている団体があるんです。私のセンターで関わっていると、仕事も一段落し、家族も持って子育てが始まったけれども時間のマネジメントが出来るようになったのでやりますという団体もあるので、年代を明記しちゃうと多くの市民の人が僕はこの年代じゃないから関係ないと思っちゃうのはちょっとリスクが大きいかなと思います。

会長 皆さまのご意見を頂きますと、生涯を通じて特に年齢は限定せず生まれた時から人生最後までという中でそれぞれのきっかけが違ったり、適切な特に大切なタイミングというのが必ず地域デビューのようにあるということで、多様な入口をということで対応していくことが大事であるというような文言が込められているのかなと思うのですけれども。他にご意見などございましたらお願いします。

委員3 私も赤ちゃんが最初のほうは抜きにして色々な年代層でそれぞれのきっかけをつくることは非常にいい事だと思います

会長 継続的な活動支援も大事ですし、タイミングに合わせた多様な支援というのも大事だと思います。その2つを取り込んでいくというのがいいのかなと考えます。

委員7 若い頃、経験したことが実はもしかしたら今の仕事に繋がっていることもあるんですね。もしかしたらその人が生涯学習の分野で自分の職業を選択するだとかということにも繋がる。それが実は生涯学習のすごく良いところで、生涯学習で仕事とは全く別な趣味の分野として生きることもできるし、それがすごくいいなと思った。それを若い世代にやれば職業の選択として学習の分野から就業へ持って行くこともできるというのは若いうちでないと出来ない。大人になってから転職して再度大学へ行って資格を取ってという方もいらっしゃるんで、全てを否定する訳ではないのですけれども。

会長 そうしましたら1点目に関しては、特定の年代、内容を特定せず生涯を通してということと、それぞれの多様な関係を提供するというところで、皆さまを支援するという内容を含めて頂ければ委員の皆さまのご意見が反映されるかと思えます。1点目については以上とし、2点目の生涯学習に関する支援対象の拡大。この考えにつきましては、皆様のご意見を進めていきたいと思いますがいかがでしょうか。年齢もそうですけど障害、国籍といったキーワードがこちらにはございます。

委員9 1つ目のさっきの話で40代、50代からというよりは生涯を通じての方が良いと言う話と、2点目に年齢、障害の有無、国籍などに関わらずとなっているので、1点目の先程の改正というかさっきの方向に持って行った方が2点目の繋がりも良いと思います。

会長 国籍にも関わらずという用語がありますので、国際交流協会の方にお伺いしたいのですけれども調布で様々な方の支援、今、課題になっていることなどございましたら共有していただければと思います。

委員5 我々の協会に加入する外国人は調布の外国人人口から見ると本当に数パーセントの方達なのですが、外国人もとても多様化しています。社会人、学生、主婦層といった簡単な括りではなくそれぞれが持つバックグラウンドとか住む環境だとかありますのでこの生涯学習に関しましては年齢や障害の有無、国籍などに関わらず一人ひとり、誰一人として取り残さないと謳っているのですけれども、外国人が求めるもの本

当に多様なので、一人ひとりアプローチするのは難しいかなというのがあります。大体1年位で滞在を考えているという方は、日本に来た目的を果たすのに一生懸命になる傾向にあります。留学生なら留学，言語学習なら言語学習，そこから先に日本での暮らしの質を求める時期に入ると思うので，そこでより学びを深めたいといったものが芽生えたときに実際に提供する生涯学習の入口を見つけられるようなフォローの仕方でも変わってくると思います。こういったことを有効に出来れば言語とか文化とかに関わらず，盛んに活動できると思います。

会長 こちらに生涯学習に関する情報の提供や相談支援，アウトリーチとなっているところが大事なのかなと思います。事務局の方にお伺いしたいのですが，実際にアウトリーチとして今，どんな取組があり，市としてどんな課題を持っていらっしゃるのか事例がありましたらご紹介ください。

事務局C アウトリーチについては，このたづくりの11階に生涯学習コーナー，こちらに生涯学習の推進委員，職員が2名います。業務としては，こういうサークルがあるとか，こういうニーズを求めているんだけど私に合った活動はないか，そういったところの相談や情報提供に努めております。その2名の推進員が施設にとどまらず，市内の商業施設に，一部のサークルと共に生涯学習に関するアウトリーチとして出向いて情報発信するという取組を行っています。今後についても，現計画でもそのようなものは位置づけられていますけれども，先程説明した通り，国での課題，コロナの話も出ましたが，より一層アウトリーチの重要性を増してくるのではないかと考えております。色々なところに派遣が出来ます。先程の商業施設であるとか，お祭り，イベントそういうところに気軽にブースを置くことによって色々な学びを色々な世代に提供出来るのではないかと捉えております。

事務局A 補足させていただきます。今，ご説明させて頂きました情報コーナーでの具体的な案内につきましては例えばサークルガイドブックとして毎年取りまとめております。この中には音楽や美術，スポーツなど様々な分野から700を超える団体が登録をされておまして，こういった団体とのニーズとのマッチングなどをご案内させて頂いております。

委員10 支援拡大というのは，今あるサークルに対してやっているのか，情報提供するというふうに分かるのですが，何かそうではなくて障害を持った方たちも出来る生涯学習の分野を増やすとか，上手く言えないんですけどどっちなのかなという。体育協会での駅伝とかスポーツ祭とかやったりしますが，障害を持った方たちを参加できるようにしたい。するように段々なっているんですけども，そうじゃないジャンルもあるのでそういったことも拡大してもいいよねということを最初思いました。

事務局B 今，市で行っている生涯学習の取組は大きく分けるときっかけ作り，これから生涯学習を始める方に向けた最初の一步を出すということで，まさに色々な分野で行われているきっかけ作り。もう一つが今，情報コーナーの話もありましたが情報発信，情報提供ということでそういった生涯学習のきっかけがありますということをも市民の皆さんに届けること，大きく分けるとこの2つがあると思っております。対象の拡大というのがもちろんこれまで取り組んでいなかった分野でのきっかけ作りの取組を増やすということもそうですけれども今，皆さんにこうやって色々な分野で集まって頂いているようにきっかけは，市内にたくさんあると思います。生涯学習の取組も，市でも，私どもの文化生涯学習課で行っているだけではなく，地域の公民館だとか地域福祉センターだとかそういったところで行われているものもたくさんあって，そういった取組をより多くの方に届けるといったところも対象の拡大という意味では必要と思っております。今，アウトリーチというところでこちらから出向いて行ってまずは情報コーナーというのがあるということ

知っていただくという取組も少しずつ行っているんですけれども、やっぱりまだそこが充分ではないというところもございます。また、地域デビュー推進委員会に所属されている委員もいらっしゃいますけど、地域デビューの方では無関心層にアプローチをするという意味で市民を無作為抽出をしてダイレクトメールを発送して実際その事業に招待するという取組も行っています。全市民を対象にすることができるかということも含めて、こういった取組がより多くの方に情報として届けていけるかといったところも市として課題と認識しております。

委員10 次に、情報通信技術の一層の活用はどう関わるのかそこがまた分からないなということで、IOTやAIなどが書いてある。IOTやAIなどきっかけ作りとは別と考えているのか。

事務局C 両方あると思っております。人の顔が見える繋がり作りということももちろん大事ですし、これまでSNSの活用だとかデジタル技術の活用が行政ではできていないという課題としてありますので、対象を拡大して若者からお年寄りまで色々な世代にアプローチした時には世代によってはデジタル技術を活用した方が、情報が届くといった場合もあるでしょうし、対面形式だとか人と人の繋がりに重きを置いた情報発信、情報提供に重点を置いたほうがいい世代もあるでしょうし、そういった幅広い目で情報をまず届けたとか、取組を知って頂きたいといったことを考えていきたいなと思っております。

会長 2点目の生涯学習に関する支援対象の拡大という意味では様々な市民に情報を提供するきっかけのところを拡大していくということと、後は様々な方々が参加できる団体の活動を支援していくこと。この2つ目の取組には含まれてるということですね。

委員8 生涯学習に関する支援の拡大というところで、共同支援とありますけれども我々の福祉分野の相談支援が明確ではないひきこもりなど、アウトリーチ情報提供、相談支援が明確でない等多分何だろうかなと思うので、しっかりとした相談支援だったり、ただ行って座っているだけではなくアウトリーチという形であれば色々な会議、色々な地域という形で実践していくというところに明記していかないとモヤモヤとしたところかなと思います。

委員7 さっきの1番のところで多様な入口という話をしたのですがけれども、例えばある人が何かをしたい、書道をしたいと思ったときにその人は一体どこに相談したらいいのか、どこへ行けばいいのか分からない。それが何処、どこへ行けば教えてもらえるよというのが情報の提供。その人にとっては書道を教えてくれるのは何処どこへ行くとこれだけのサークルがあってこういう先生がいて教えてくれるよというのがその人にとっては欲しい情報。それはどの分野もそうだと思うんですけども。入口となる相談先、その情報がどこで得られるのか、もしくは誰から教えてもらえるのかという入口と場所はどこっていうところが明確でないという方もいらっしゃいます。こんなことやりたいんだ、それはボランティアじゃなくてどちらかというサークルとして楽しまれるほうです。それであれば先程のサークルガイドブックもお見せしながら、お住まいどちらですか、この場所だったらこんな団体がありますよというのをあくまでも紙とかパソコンのデータでのお話にはなってしまう。さらにそこに先程のアウトリーチというところでは、その現場にうちの職員も色々なボランティア活動だったり市民活動だったり行って活動を見学させていただいたり体験させていただいたり、もしくはボランティアさんを連れて行くとか具体的に自分が見たことない経験したことないあくまでも紙ベースの話でしかないんだけど、具体的にそこはねというのはより具体的に伝わるってことは、やはり現場に行っている人はアウトリーチしている人がどれ位いるのか、それが詳しく説明出来る、もしくはパソコンやデータ上、冊子は写真とか載せると分厚くなってしまいますけれども、今、データベース

では活動の様子の写真は個人情報に難しい時代だから、でも物の写真だとか活動している全体像の写真、映像的に映えるもの動画的に作れないかだとかというところがあると参加する人はすごくわかりやすくなる。行ってみたいもしくは見学行きます、いついつだったら見学受け入れてくれます、というところまでであるとその人にとっての入口がすごくハードルが下がる気がします。幅広い市民に対して入口をどこで提供するの、紙やパソコンだけではなくてやっぱり人というところも私は大事なのかと思います。どの活動も人と人との一緒に文化の方もいろんな分野の方もいらっしゃるけれども色んな趣味や思いをする人が、一緒になって、この書道であれば調布市内でよくするにはこうしようねと話されていると思うので、そこは人という枠をあまり外さない方がいいと私は思います。

委員1 おっしゃる通りです。先程世代によってSNSを使ってお稽古の先生を探す。そちらの方が最近増えています。やはり自分の身近な人の話を聞いてその先生につく。生涯学習というのは自発的なものだと思います。

委員10 探すときに文字しか書いてないというのは寂しいですよ、入口を下げてもらえると色々入ってくるのではないかと思います。

委員1 その先生が何処に住んでいらっしゃるかも大体わかる。そういうのも確認出来る。そういうところは活用したいと思う。

委員7 少なくとも二ヶ国語、三ヶ国語位でいくと外国籍の方は最低限英語表記があると入口としては入りやすいのかなとか、言語、外国籍の方という、もうたどたどしい英語、僕も英語出来ないんでやりとりがせいっぱい。国際交流協会さんの方に詳しく聞いてみたいです。

委員10 情報通信技術を一層活用するとあるので自動翻訳機などもあるので、活用しても良い。

委員5 国籍の面で言うとその求めているものが多様化という話をしていたんですけど、言語が訳されれば伝わるのか届くのかというところではなくて、その情報が有るよということがまず届いていないので、例えば年齢とか障害とかとらわれず対象を広げるのであれば、例えば外国人であれば、それぞれの国で届きやすいコミュニティがあってベトナムであれば、ネパールであれば何とかそういったものにまず一旦届くようにすることからやらないと、ある情報が自動翻訳されていますだけではほぼ届かない。例えば、視覚障害の方にはどうやって、私もよくサークルの冊子を見て来る外国人にこれですよと言います。最初に書いてあることは社会活動したい大人をターゲットにしているお知らせに感じてしまいます。情報をより届けるのであればこういうのがあり、そこにたどり着くまでのツールをもう少しアテンドしないといけないんじゃないかなと思う。

委員4 今、おっしゃったように相談支援拡大を強化するにしても相談するのを待っているだけではダメなのかなと思ってまして、まだまだ生涯学習を学ぼうとする方にあった発信みたいなものを積極的にする必要はある。そういった意味では文言をどうするか色々事務局の方で考えがあるのかと思いますけれども、相談支援とか共に学べる環境も必要だと思います。

委員2 委員5がおっしゃるように何か情報が置いてあっても最終的には人と人というか、外国人のロコミみたいなあるいはグループでのロコミ繋がりが必要なのかなと大学とかで周知とかをやっているところですか。

委員3 情報発信ということで私の過去の経験からすると地域デビュー委員をやっていましたしサークル団体としてもそれに参加したこともありましたが、例えばたづくりの大会議場とか11階みんなの広場でや

った場合にわざわざそこに来ないと来てもらわないと見てもらえないわけですよね、市役所1階の広場でやるとか駅前の広場で各サークル団体なり市民活動の団体が出店を出して実演を含めてPR紹介をする。そういう場所でやればそこを目的として来ない人でも人の流れの中でPRを拾えるということが出来るのではないかと思います。隔離された場所だとわざわざそこに行かないと感心のある人しか行きません。そうではなくて人の流れがあるところで何かやった方がいいのではないかとこう思います。

委員8 2点ありまして、1点は生涯学習は自発的なものというところがあった中で自発的に出来る人たちをより自発的にするのか、そうではない人を取り込んで行くのかというところでまた話が変わるなど話を聞いてて思いました。もう1点は情報通信技術の活用については地域情報化推進協議会の推進委員というのをやっているんですけども、デジタル行政推進課が結構進めていて情報交換、情報共有するとより見えて来るのではないかと。かなり広報を使ってデジタルを使って情報があると行政という感じです。

会長 技術があるし情報が載っているところには集まっているんですけども、それが肝心な方々に届いていないとか活用できていないというところが課題ですね。

委員7 アウトリーチというところで言うと何とかなの国のコミュニティの集団がいついつ集まるよというところに誰かが参加することによって今、やりたい事、生涯学習で今どんな事がやりたいの、あなたたちはこの中で10人選べば10通り位出てくるのかもしれないですけども。そこへ行くと教えてくれる、1回聞いてきて調べて連絡してあげるということも出来るかもしれないし、今、調布市内で入口としてというところでそこにアウトリーチをかけていく人もある種幅広い情報を持っている人。ボランティアコーディネーター、ボランティアの情報だったり、地域福祉コーディネーター情報が集まっているところではうまく活用されていない気がする。きちんとそこに行けば得意なところにつなげてくれるっていうのが多分大事だと思う。それも入口のひとつ。全ての情報を一人の人が知っている必要はないと思う。この分野ならあそこに聞けばいいよという情報が提供できるというのが大事だと思う。

会長 ありがとうございます。次のSociety 5.0に向けた情報通信技術の一層の活用、ご意見いただきたいですが、そちらもすでに議論でも出てきていますがコロナ禍でずいぶん状況が変わってきているので、それぞれ支援されている状況を見てもかなり変わってきているのではないかと思います。より一層この部分を強化するために、対象によっても違うことはあるかと思いますがいかがでしょうか。

委員2 IOTやAIなどのというのは取った方が良いでしょう。ICT等の情報通信技術という表現が適切と感じました。

委員10 Society 5.0とは簡単に言うとどういうことでしょうか。

事務局A 聞いたことは皆さんある方が多いのではないかなと思いますが、具体的には、内閣府の定義では、ソサイティは社会でございますけれどその前にさかのぼりますと狩猟社会から始まって農耕社会、工業社会、情報社会これに次ぐ社会として5.0と言われております。具体的にはサイバー空間という言葉方をしますけれども仮想の空間、現実の空間これを高度に融合させることによって社会的課題の解決や経済の発展に資するという事を総称してSociety 5.0と言われております。端的に言うのであればIOTやビッグデータこういったことをはじめとする技術革新これが一層進展する社会と捉えております。

委員10 きっかけづくりも重要なんですけれども仮想空間というとメタバースとかも含まれるのか。スポーツ界ではほとんど聞いたことがないです。

委員9 今のご説明だと仮想空間だとかIOTとは違うかもしれないけれど、Society 5.0に向け

たというのはいけないんじゃないかと思います。そのほうがスッキリするように気がしますけれども。Society 5.0って何かという質問も出るくらいだから。

委員7 最後にそれを読むのは誰かと考えた時に例えば生涯学習をしたいと考えている高齢の方だったりとか子ども達だったりとか、人が読んだときに一番大事なことですよね。それがやりたいという人がわからない言葉で書いてあったら伝わらないなと思うんです。国が謳って英語に数字にかっこいいのかもしれないですけども、それがいかに市民に伝わるのかと考えた時にこう書くよりか情報技術の一層の活用なのか何に特化した情報技術の活用なのかみたいな形で、これが今、こういう方向で進んでいるのを将来見越してそれを生かして調布の生涯学習を進めようと英語で書くよりは市民に伝わりやすい。この後、この下に具体的には何をというのがついてくるのであればさっき仰っていた情報通信技術を活用し、参加者を増やしましょうとか団体を増やしましょうみたいな形に繋がって行った方が一層の活用をして何をするのか、情報技術が逆にあった方がわかりやすい。

委員8 これが最初についてくるということは目的があってついていてのではないかと思うんです。背景を出来ると考えやすいかなと。要らないよね、ついていた方がいいとなるのではないか。

事務局C 国の考え方に横引きという話がありまして基本的に情報通信技術を活用したという表現ですけども先程事務局から説明した通り、デジタルデバイド対策と言われておりますが、例えば、高齢の方がなかなかスマートフォンの操作方法などに苦しんでおられるといった状況で、こういうSociety 5.0色んな情報技術の急速なところにも対応できるように、取り残されていかないような支援を打っていく必要があるといった形で概念的なところでも記載しています。情報の発信という部分で、デジタル化とか単純に今、語れるところについては情報発信の工夫の手法なのでここは知恵を出し合って考えていければ当面对応できるかなと思います。コロナ禍で何が起きるか分からないといった形で概念的な要素もありますので言葉として、ここに据えているような状況になっています。

会長 2つ目の点と合わせた情報発信での活用というのは、障害があるとか具体的に働けなくてもデジタルなところが参加できるとか増えていると思うんですけども、例えばサイバースペースでの社会参加そういうところまで含んで誰一人として取り残されない、結びついていくようなイメージがあるのか。調布市に実際にそういう取組をされているもしくは団体があるのかというのが見えてくると、ここで言っている一層の活用というのが何を良いのかがわかるとと思います。そのようなことはアンケートやヒアリングの時にそういうグループでとか取り組みについて広げていただくみたいなことは可能なのでしょうか。

事務局A ご指摘いただきましたとおり、障害の有無に関わらない生涯学習の推進これは非常に今回、大切な議論のポイントだと考えております。国の現教育振興基本計画におきましても4つの基本的な目的の1つに人生100年時代を見据えた生涯学習の推進と合わせて障害の有無にかかわらず生涯学習の推進をしていくということが定められています。先程、委員10からも障害がある方に対しての取組が進んでいるという説明をいただきましたが、まずは会議の中で他の委員の皆様が取り組んでいらっしゃる中で、こんな取組としているのでこんな課題もあるということもお聞かせいただければと思います。その中で、会長がおっしゃっていただいていたようにこの後のアンケート調査あるいは関連団体のヒアリングの中にそういった関係団体に対して私共がアプローチして参りたい。その結果を第二回の会議の中でもフィードバックしていきたいと考えています。

委員10

この中で、情報通信技術を活用した障害がある方へのきっかけづくりなどがあるのか。

委員2

きっかけ作りというよりは私が把握している範囲では技術的なところで何か出来ないかということをやっていることが多くあります。

委員10 仮想空間の中で障害関係なくみんなで集まるとかそういったものはあるのでしょうか。

委員2 それはあると思います。冊子にあった情報がネットに載っているとかSNSで見やすいようになっているとかそういうのはSociety 5.0の中だと思うので、先程IOT, AIなどはいれないと言ってしまったけれども情報通信技術、紙も大事なんだけれども紙以外のものもネットが使われるようになってこれからも使いましょうという意味でいいのではないかなというのは感じました。

委員7 生涯学習の方ではない障害、多様な障害の方で考えるとやっぱり当事者の声を聞いて拾わないとダメだと思うんですね。この委員に障害を持った方は誰もいないのであくまでもこれは想定論の話であってとなってしまう。例えば知的障害をお持ちの方がとか身体障害をお持ちの方がっていうのは想像ですら私は社協ですので色々な方と接点があり先日も車椅子を利用されている方と一緒に小学校の出前講座など一緒に行ったりしてますけれど、やはりあくまで想像の枠を超えていないので今更委員に加えることは出来ないのではないかと思います。次の話題になっているアンケートの送付先だとか協力者を選ぶ時に無作為抽出で選ぶ方法もあるんだけど、あえて障害を持った方が意見をちゃんと拾うということが行われないとこの多様な障害、多様な生涯学習の推進というのはあくまでも健常者が考えた空論だけになってしまって障害当事者の意見は入らないという風になってしまいます。最低限でもどういう団体に聴覚障害者協会、視覚障害者協会、身体障害者協会がありますし、誰かにということであれば社協など情報持ってますので、そこにこの団体をお願いしたいだかという風な形でそこは一般のとはちょっと区別してきちんと障害当事者の声として意見をきちんと取りまとめた上でないと多様な障害、多様な生涯学習の推進という大きな目標からずれていってしまう可能性がある。そこはちょっと特化した形で調査すべきなんだと思います。そこは障害者の声としてそこを生かすためには何が必要なのか。後は広く一般にという意味で次の資料を見ると配架先選んで出してあげないと「あなたたちが勝手に作ったんだろ」って言われかねないので。今、それが一番ダメですよ。当事者の声をきちんと拾うっていうのは今一番。もしかしたら外国籍を持っている方にも場合によっては通訳さんを頼んでも書いてもらうくらいのことをしないと当事者の声がない中で、健常者が勝手に決めたとされますから、そこは結構丁寧にやらないといけないと思います。先程課長の話大事なんです。国をあげていますということであれば、その声を拾わないままやるのはダメです。

委員8 今の話はごもっともで国はそうやって動いています。調査の依頼が来たりするので当事者に聞くというのは非常に大事なのではないかなと思います。

委員3 私も当事者の声は非常に大事だと思いますし、今、障害という言葉の中に外国の方とか知的とか身体的障害というのがありましたけれども経済的あるいは親が子育てを放棄した、例えば調布市内で言うと委員7はよく御存じだと思いますけど、キートスも学生の生涯学習の支援の対象になると思うんですね。障害という言葉の定義範囲を広げた方が良くと思います。

事務局C ありがとうございます。後程資料6でアンケートの内容についてご説明させていただきますけれども皆さん今からご意見頂きました通り、例えば障害者しかるべき団体だとか調査、直接ヒアリングをかける必要もあるかと思うのでそれについてもこちらの中で検討させて頂いて声を拾い上げたいと考えております。

会長 当事者の声をしっかりと入れるべきであること。情報通信技術の一層の活用というところはかなり曖昧なところがまだあるなど今日皆様のご意見を頂きまして感じました。引き続きここは実際にどういうものを想定しているのか、どういうものがあるのか、ニーズとしてももう少し議論を深めて、また次回引き続きこの点を議論していきたいと思っています。

委員9 今の情報通信技術の一層の活用のところの言葉の使い方なんですけれども、このより効果的、効率的な生涯学習のきっかけ作りというところを読んだ時に、生涯学習が効果的、効率的だと思ったのですけれども、よく読むとより効果的、効率的なきっかけ作りなんですよね。そう表現したいのであれば惑わすような表現ではなくて生涯学習のためのより効率的、効果的なきっかけ作りと文章を変えないと意味が二通りに取れると思います。

会長 生涯学習がより効率的でなくてはいけないというような表現となっている。そうしましたら時間のほうもあるので一回ここでご意見をまとめていきたいと思っています。

委員10 A3資料の左の一番下にところにまちづくりに生かすという、前に生涯学習推進委員をやった時にまちづくりに生かすというのを結構話していたんですけれども。このアンケート見ると入っていなかったものでどう考えていらっしゃるのかを知りたいんですけれども。

事務局B 引き続きまちづくりに生かすという考え方は私共も必要だと思っていまして、たづくりの方に学びの成果を生かしていきましようとお書かせて頂いていて今、ちょうど令和5年度からの次期基本計画の作成も進めているんですけれども、そこで引き続き考え方として掲げていきたいと思っています。今、3番の右上のところにお書かせて頂いた3点というのがこれまでの生涯学習振興における考え方の中で、あまり我々として打ち出せていなかったところ新たな視点としてとして掲げていきたいと考えているところを3番の方で制御しているということです。

会長 そうしますとその3点に共通してまちづくりに生かすそれが分かると確かにいいと思います。

委員10 皆さんのお話を聞いているとまちづくりに生かせるような事例が沢山ある。聞いていなかったようなこともあったので事例を出してもらっていいと思います。

会長 ありがとうございます。次に行きたいと思っています。

事務局A 会長の選任をさせていただきましたので、ここで調布市長からの諮問書を皆様にお配りさせて頂きたいと思っています。

事務局D 先程も条例のご説明をさせていただきましたところですが諮問書というものを作成させていただきました。調布市長から調布市生涯学習推進協議会会長様宛に諮問書という形で提供になります。調布市における生涯学習振興に向けた基本方針についてという表題になっております。2番に諮問理由を記載しております。市は、生涯学習振興施策について、調布市基本計画の施策の一つに「生涯学習のまちづくり」を位置付けるとともに、個別計画である調布市生涯学習振興プランに基づき、生涯学習の推進に取り組んで参りました。令和4年度は、調布市基本計画及び調布市生涯学習振興プランが最終年次を迎えることから、次期基本計画の策定に向けた取組と連動し、生涯学習を取り巻く社会潮流や国・東京都の動向などを踏まえ、調布市における生涯学習の振興に向けた基本方針について諮問するものであります。とさせていただきます。これを受けて今日と第2回の議論をして頂くという事になりますのでよろしくお願いいたします。以上です。

次第3 (2) 生涯学習に関するアンケート(案)について

- ・事務局より以下の資料について説明

生涯学習に関するアンケート（案）について（資料6）

会長 ありがとうございます。まずは、対象とする方々等、先ほどもご意見ありましたが、目的から配布、配架先までいかがでしょうか。

委員3 冒頭にも言ったんですけど、このアンケートで生涯学習に関するアンケート受け取った人のほうが私、そんな事やってないよと思う人結構多いと思います。例えばボランティアやっています。生涯学習だと思ってない人たくさんいると思うんですね。きっかけは生涯学習なんでしょうけど、生涯学習はどのような分野をやっているのかというのを書いておかないと、私、貰ったの関係ないと思っちゃう人多いんじゃないかと思うんですがいかがでしょうか。

事務局D 問2には学校や勤務先以外で何かを自主的に学んだこととざっくり定義となっているので。

委員3 学んだことが私こんな事してないよというふうに思う人がいるのではないかな。

事務局D もう少し自分事として捉えられるような説明にということですね。

委員7 封書のタイトルでこれ極端な話なんですけれども社協で市の広報を出していますが、市民の人から見ると、俺、福祉関係ないからそのまま行っちゃって、それと同じようなことがおきないかなと心配かな。福祉に興味のある人や福祉を必要としている人は必至で読むけれども、俺福祉関係ないよと思っている人は見てくれない、よっぽど知り合いが出てから見てくれと言われないう限り見ない。そこに入口のところハードルをいかに下げるか、ご意見の通りなんです。

事務局C ありがとうございます。設問の内容を修正するというのではなく、今、表面で議論頂いておりますがこちらの表面で調査の概要だとか事務局で盛り込んでいければなと思います。今の視点、複数の委員さんからご意見頂いておりますので、手に取った時により多くの方が回答できるような見せ方を工夫していきたいと思います。

委員7 さっきの話の中で障害当事者の意見というのがあったと思うんですけども対象にそういうのが入ってくるのを合わせて配布だとかアンケートフォームそのものところとていくと、例えば視覚障害の方だとか、アンケートをどうやってもらうのか結構真剣に考えないといけな。それはもしかして障害福祉課が得意だと思いますのでそれは得意な分野のところへやり方を聞けばいいと思います。当然、精神疾患をお持ちの方聴覚障害の方は紙でもメールでも、身体障害でも聴覚だとか視覚障害以外であれば身体に麻痺があってもメールは読めるので紙でも誰か代わりに呼んでくれる人がいても大丈夫。後は知的障害の方に情報を提供しようと思うとルビふってくれという話になりますよね。全ての漢字にそうするとページが約3倍位になるかと思うんですけど。そうじゃないと漢字読めないから僕は答えられませんということになって対象者に合わせたアンケート文面の作成というのはそれぞれ必要になる。当然外国の方に情報提供するのであればさっき最低限英語表記といったらそれだけじゃ伝わらないですよというご意見いただきましたけれども、少なくとも国際交流協会に関わっているどれくらいの言語でいけるのかあとはそれを準備する時間ですね。このスケジュールでいくと12月中旬というともう中旬なんでそれを最低限でも英文化するだろうという時間をどれくらいかけられるのか。でもそれをしないと外国籍の当事者の方の意見を拾えないってことになってしまう。そこは多分誰に取るかによって文面の書き出しが変わってくる。当然集計も種類が違うんで簡単にはいかないでしょうけど。どこかでやるしかないという風になるかな。

委員 8 このアンケートを取った後に、どこかに公表されるのか。内部で話し合うために使うのかが明確だとそれぞれのアンケートが書きやすいと思います。このアンケートを取るのにもかなり時間を割いてもらっている、割いてもらった中でフィードバックがあると記入した人たちはうれしい。前に団体にアンケートを取った時には生涯学習をやっている団体さんは場所とか時間とかの内容が違っていたので個人に聞くとかもそれが必要であればやった方がいい。結局何が起きるかっていうと詳細はわからないですけども今までよりもしかして改善されているかもしれない。それを持って生涯学習課として何かしなきゃいけないのか新しいものを立てようとか立てられないとか色々なことはあることはあると思うんですけども、団体向けのアンケートは少し違う風にとった方がよろしいのではないかと。

委員 7 対象のところが団体とセットで利用している人たちと生涯学習関連事業参加者ですよ、この時点で生涯学習に興味がある人っていうくくりの中なかとってないことになるので、そうではない一般市民、例えば住民票無作為抽出での実施はよくありますよね。アンケートの集計とかで、後は生涯学習に今まで関わってなかった人たちの意見を拾わないと新しい人を引っ張り出すだとか参加してもらおうとか多分出来ないと思うんですね。対象がなどではなくて、どこかに一般市民の枠だとか障害をお持ちの方、もしくは生活困窮の方だとか、どの様か書かば問題として広く一般市民という枠を取っていかないと関係者だけだとやってる人の意見だけで物事を進めるのは良くないと思う。

事務局 A 皆様本当に様々な意見を頂きありがとうございます。先程事務局の方からも説明しましたが、1つは必要な支援が届けられること。当事者からのご意見については大切だと思っておりますのでそこは必要な支援を抱えている団体には私共の方から直接伺わせて頂きたいと思っております。例えば障害福祉分野との連携で申し上げますと、こうしたアンケート用紙にQRコードをつけることで読み上げソフトなど活用しているような方がいらっしやると思っています。そういった工夫もしながら進めていければいいのかなと思っております。また、広くというところで申し上げますと特定の団体だけにとどまらず広く一般にというところで市のホームページや市報など活用して利用するなど一つだと思っておりますし、WEBアンケートをやるということはQRコードから誰でも容易にアンケートに答えて頂けるというようなこともあると思っておりますのでそういった様々なアプローチを皆様から頂いたご意見を踏まえて取り組んで参りたいというふうに考えております。

事務局 B 合わせて一般の方、生涯学習やったことない興味がない方に向けたというところは今、課長の方からも申しましたように出来るだけ出来る範囲でといたしますがホームページ等で広く呼びかけてというのはもちろんやっていきたいなというところなんです、調布市の方では市民の方に無作為抽出で市民意識調査というのも毎年とっています。その中でも生涯学習に関する設問がわずかではありますが入っていたりですとか、例えばここに問3のところ生涯学習の情報を何から入手してますか。という問いがあるのですが生涯学習というカテゴリーではないですが普段こういったところから市の情報をとっていますか、といった設問は市民意識調査の方にも入っていますので既存の調査の方でも回答数かなり得られておりますのでそういった既存のものもうまく活用しながら分析に使っていきたくて考えております。

会長 回答期限が短いので、その中でなるべく考え方を決めていく上で重要なところに視点をあてて調査していくということになるのでしょうか。全てやるのは、この段階では難しいのかなと伺っていて思いましたので、濃淡をつけて頂ければいいのかなと思っております。またアンケートだけではなくヒアリングも同時にやるという事なので、これはあくまでもアンケート案でしたので、そのあたりについて何かあれば後程ご意見いただければと思います。すみません時間が長引いてしまいました。裏面の調査の質問についても色々ある

と思いますが、特にこのところはどういうご意見ありましたらお願いいたします。

委員9 先程、委員3からも学習という言葉で拒否反応が出るのではないかというのがありましたが、この設問の中で大体1番とか2番は生涯学習と書いてありますが、問4、問5だけ学習や活動となっていて、ほぼほぼ学びや地域活動かな。この最初のところでこのアンケートで生涯学習とは何かみたいなことを聞いて、何でここで、ここまでは生涯学習という言葉だったのに学びや活動が出てくるのか、何かを聞かれているんだろうという統一性が無いなという気がしますけれども。

事務局A アンケートの設問の内容につきましてはご意見を踏まえまして、事務局でも検討させて頂きたいと思います。

委員7 冒頭に調布市が現在抱えている生涯学習の定義みたいなことは説明、こういうものも生涯学習なんですよ、多分生涯学習ってさっきもおっしゃったように自分のやっていることがこれは生涯学習とってないでやってた人結構いるので、基本定義が枠に合ってそれについて以下の質問にお答えくださいみたいな方が多分3行とか4行で収まるんじゃないかな。冒頭に少しあった上で今の文言を少し整理したほうが良いのかな。

委員10 これはA4、1枚にまとめたいたいなという感じですかね。今の話を丁寧にしていけばいくほど言葉が増えていって分かりにくくなるその辺りは微妙ですけども、あまりペン先すら小さくなっていくので、もしかしたらA4の1枚にしたほうがいいのかも。まちづくりにつなげるはなしがやはりなかった。まちづくりにつながる話があった方が良いのかなと思います。

委員4 当事者の方にもアンケートという事でしたけれどもアンケートそのものではなくても、ぜひヒアリングの中でも聞いて頂きたいと思いました。

委員7 この配布先、配架先、ヒアリング先も比較的公のところが多いので、もっと民のところの話を聞いた方が良くないかな。民間で色んな事をやっていますので公的なところだけではなくそれが足りないからこそ民の色々な物が動いているというのがあるわけで、さっきもご意見出ましたけれども、障害者ひとつの居場所としてキートスという場所があるだとかちょうふだぞう、希望が丘さんとか、障害の分野に合わせた障害者地域活動センターもありますし、また、CAPSなんかも若者のひとつの居場所としてというのが設定であります。最近うちのセンターでもやっぱり居場所って大事だよなというところがあって多分生涯学習も実はそういう居場所がある中で何か生まれてくることもある。例えば仙川にポストという新しいわりと自由に誰でも出入りできる場所があったりだとか柴崎いろどりステーションさん、ここも非常に多様な子ども達の学習支援もやっているし高齢者の方が集って音楽会やったりだとか勉強会したりしていらっやっる。そういうところも色んな人が来ている場所だからこそ、そこでも生涯学習が生まれていると思うんですね。私たちこんなことしたい居場所の中で出てそれがこういう勉強会しましょう、こういう勉強会しましょう、こういう活動しましょう生まれていると思うのでできればここはヒアリングとかでサポート、多分これをアンケート1枚送ったそれを書いたからといって見えるものではないと思うので、直接的にヒアリングする中で場合によってはそこに来ている人のどうなんですか直接的なご意見が聞けるというか。

委員8 私、アンケートマーケティングの研修とかで、アンケートは知るためにとるのではなくて、自分への戒めだから出しているんですけども、アンケートを使った方が良いというのを思い出しました。市のホームページを見ていないだとかやっぱりLINEなんだろうなというか仮説を立てて、やっぱりこうだよ。というように逆算しながら落とし込むとちょっと機能していくかなと思います。

会長 生涯学習はかなり民のところが強いというか幅広い分野ですので、それが分かるような、多様な生涯学習が実際把握できるような調査であるといいと思いました。まだまだ議論が足りないところかと思いますがお時間が決まっておりますので最後、その他につきまして事務局の方からお願いします。それでは議題の4を事務局の方からお願いいたします。

次第4 その他

- ・事務局より、次回協議会の日程調整、その他事務連絡を報告

会長 以上を持ちまして、令和4年度第1回調布市生涯学習推進協議会を閉会とさせていただきます。長時間にわたりありがとうございました。

—了—